

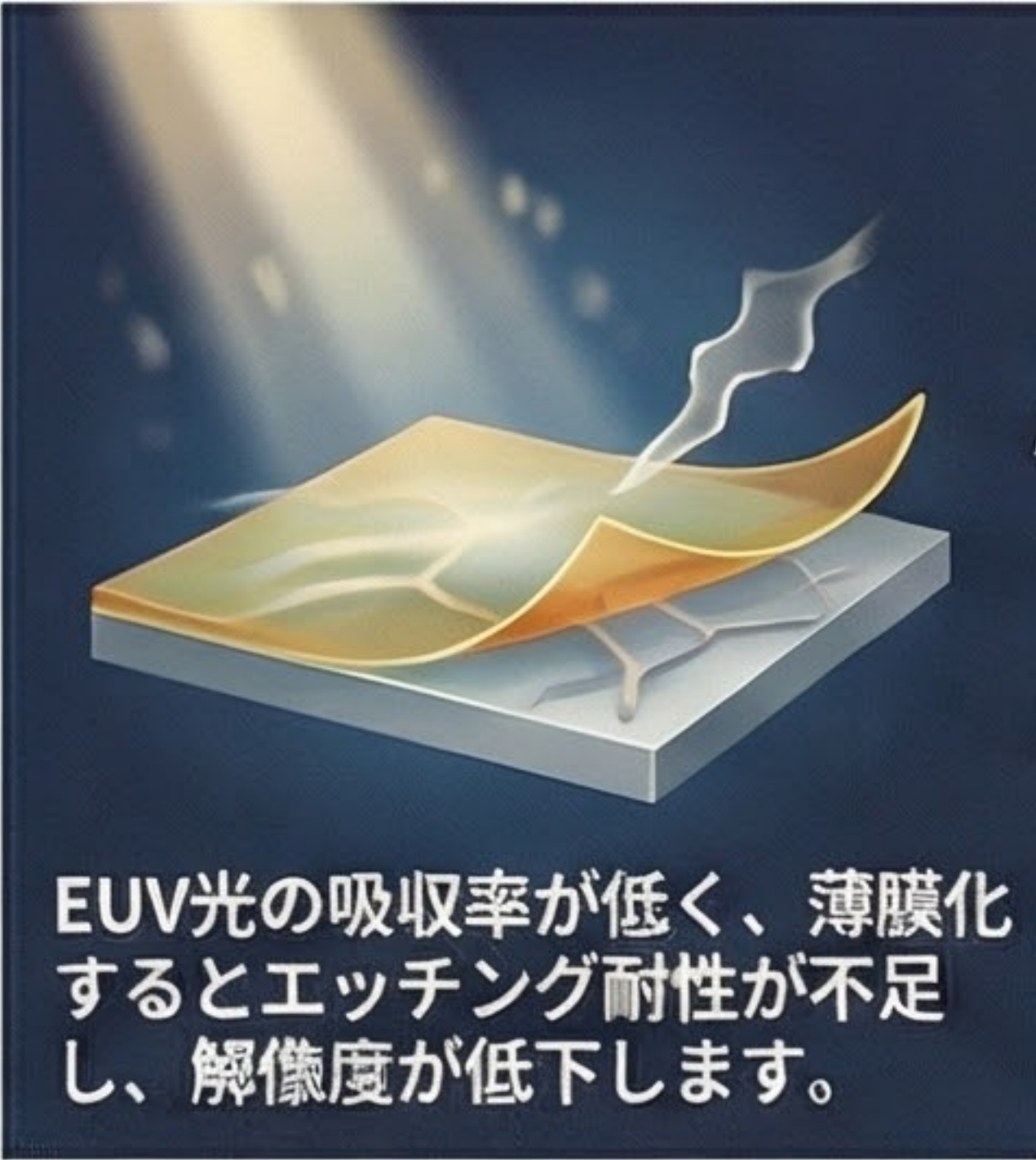
次世代半導体の覇権争い：メタル酸化物レジスト（MOR）特許戦略マップ

なぜ「金属」へ？MORがゲームを変える理由

主要プレイヤーの戦略ポジショニング

従来の有機レジスト（CAR）
は物理的限界に

MORによるパラダイムシフト



【原料・中間】 ADEKA

「チョークポイント戦略」でサプライチェーンを掌握。湿式・乾式両陣営に必須の前駆体（プリカーサ）供給に特化し、「隠れた勝者」の地位を築きます。



【原料・湿式】 JSR/Inpria

「物質特許」でコア材料を独占。中核技術であるスズ（Sn）酸化物クラスターの基本特許を固め、市場のデファクトスタンダードを狙います。



【装置・乾式】 Lam Research

「ドライプロセス」で市場を破壊。液体を使わない成膜・現像プロセスで、既存の装置市場（コータ・デベロッパ）の常識を覆します。



【湿式・ハイブリッド乾】

東京応化工業（TOK）/ 富士フイルム / 信越化学
既存の有機レジスト技術を活かし、ナノ較子やハイブリッド材料でJSR特許網を回避しつつ対抗します。

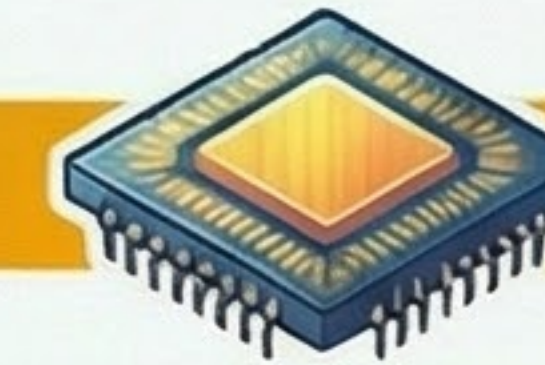
2028年に向けた市場の未来

2025年：戦略的転換点

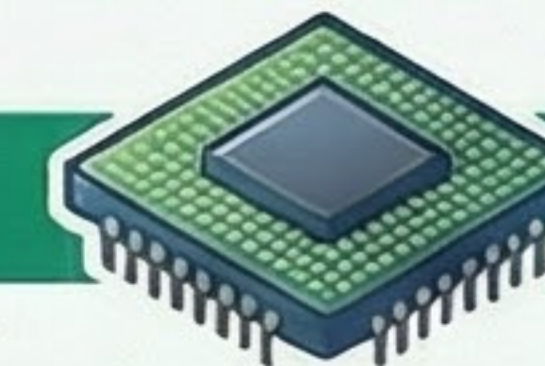


JSR/InpriaとLam Researchが訴訟から一転、和解・提携。材料とプロセスの王者が手を組みました。

ドライとウェットの「棲み分け」が進む



最先端はドライ



量産はウェット

ドライとウェット工程ごとに最適な技術が選択されると予測されます。